

伊能忠敬研究

研究

史料と伊能図

二〇一一年

伊能忠敬関係資料国宝指定記念
伊能忠敬研究会十五周年記念

特集号



目次

グラビア

伊能忠敬関係資料国宝指定記念
伊能忠敬研究会十五周年記念 祝賀会 · · · 1

- 第一部 伊能忠敬記念館見学と記念撮影 · 伊能忠敬墓参 · · · 2
- 第二部 講演と伊能測量関係者子孫交流 · · · 3
- 第三部 祝賀会 · · · 4

経過報告

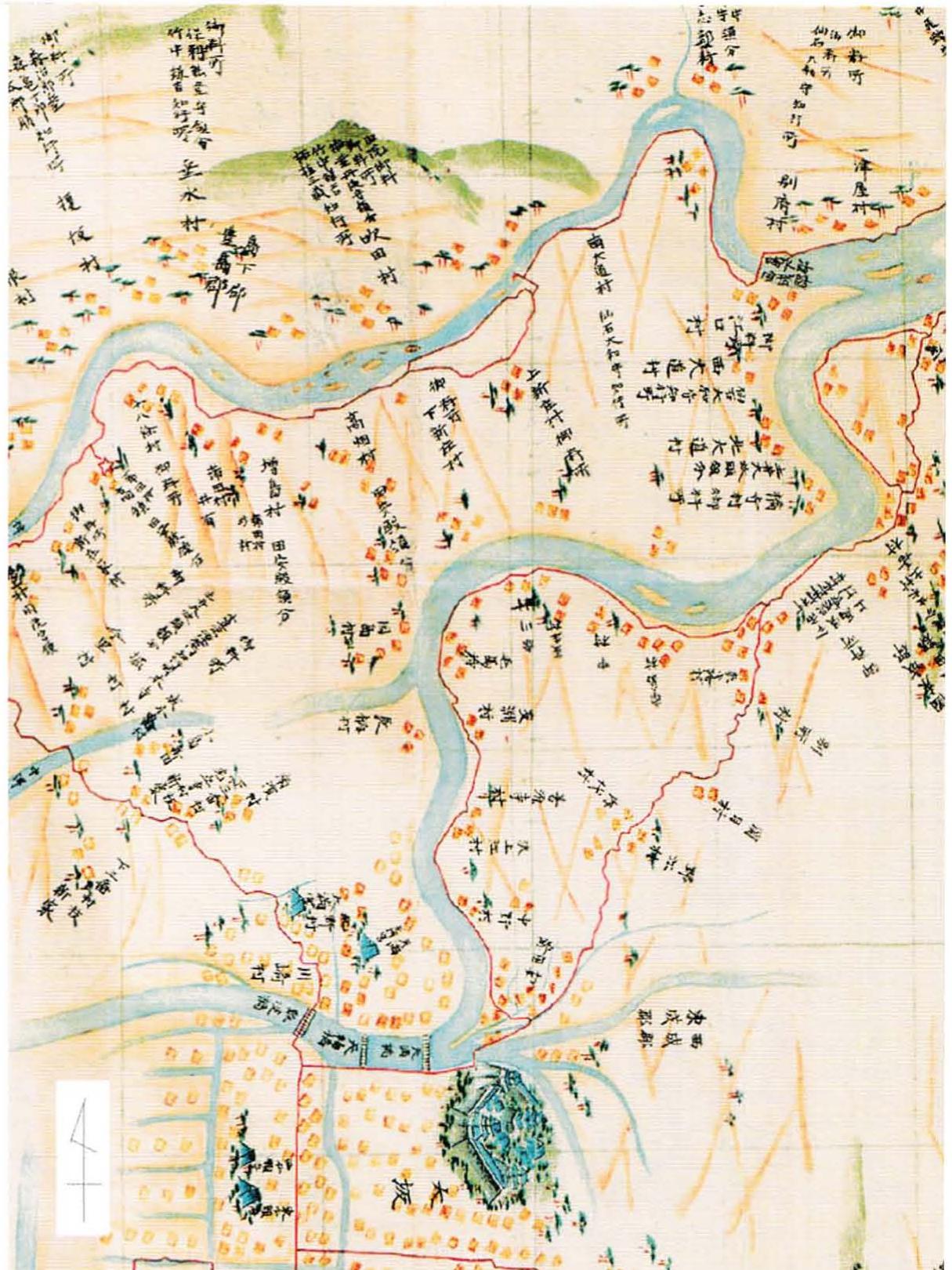
出席された伊能家縁者・伊能研関係者らの紹介 · · · 8

大河ドラマの実現を目指して四首長会談・マスコミ各社の報道状況 · · · 9

記念講演

- 「フランス中図の佐原招聘から完全復元伊能図フロア展まで」 · · · 10
- 「伊能忠敬の長女・お稲の血筋についての新事実」 · · · 14

10 9



▲ 大阪城から淀川下流の拡大

表紙図解説

米国議会図書館所蔵

伊能大図第一三五号 大坂

二〇〇一年にアメリカ議会図書館で発見された伊能大図模写図二〇七枚のなかの

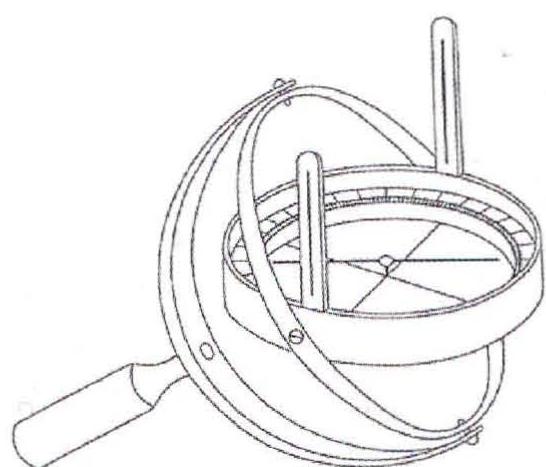
着色図で、最も美しいと思われる図である。大阪城が描かれ、淀川にかかる三つの大橋が見える。紀伊半島沿岸を測ってきた第五次測量の測線は沿岸部を通って、淀川沿いに京都へ抜けた。

四国測量の帰りの測線が尼崎から大阪を通り抜け、生駒を越えて、大和に入る。信貴山、龍田明神に参つてから当麻寺まで南下し、戻つて法隆寺、法輪寺、法起寺に参詣、大和郡山に出る。それから矢田山にゆき、薬師寺、唐招提寺、などを経て奈良に出た。大和観光を兼ねた測量の始まりである。見学内容は大和靈宝記一巻に記されている。

海岸線と市街中央部の測線の間に、意味不明の空白部があり、以前から気になっていたが、伊能図は自分で測らない部分は描かないという原則に従つて、残されたのではないか、と今は思つてゐる。

(題字は忠敬の筆跡)

渡辺一郎



二〇一一年二月十二日、昨年末から全国の会員各位に呼び掛けていた伊能忠敬関係資料国宝指定記念、伊能忠敬研究会十五周年記念祝賀会が佐原で開催された。写真などを交えて当日の流れを追つてみる。

（文・渡辺一郎）

伊能忠敬関係資料国宝指定
記念祝賀会

伊能忠敬研究会十五周年



前日から当日にかけて小雪という予報だったので、大変心配したが、前に伊能敏雄理事（香取市議）が中心となつて、渡辺も手伝つて会場の開花亭の設営にあたる。

広い会場なので、横看板、立て看板、名札の配置、マイク、パワー・ポイントのテストも大変だった。

お墓の方は前日までに窪谷さん、本郷さん、成家さんが清掃を済ませてお花も飾られる。九州勢五名と金沢の河崎さんは、渡辺と一緒に北ホテルに泊し、伊能理事も加わつてミーティングと乾杯の練習。

夜明けたら降雪はなし。曇りだけどこれならOKと九州組は研究会の帽子をかぶつて、タクシーで佐原駅、忠敬橋の出迎え場所に散る。渡辺、伊能市議は資材と一緒に別の車で伊能忠敬記念館にむかつた。九時半頃だったが、集合場所の記念館には会員が大勢つめかけていた。伊能洋さん父子をはじめ、東金の高宮グループ、神保両家、木内志郎さん、香取支部長はじめ、地元会員も殆ど揃つていた。

成家さん、新沢さんが出席を確認し、当日案内と記念館入場券を渡して

深川富岡八幡宮の伊能忠敬像。
2001年、伊能ウォーク終了記念に建立。

千葉

【支局】千葉 市260-0013
千葉市中央区
電話 043-523-2090
メールはchiba@yomiuri.com
成田分局 市282-0011
成田空港内郵便局
電話 0476-33-3897
FAX 0476-33-3898
或由支局 市278-0011
電話 0476-28-7911
柏川橋郵便局
電話 0476-273-0011
柏川橋ビル 5F
柏 〒277-0005
柏川橋前郵便局
電話 0476-276-0303
本明神郵便局
電話 0476-272-2377
山0476-55-6152
佐原郵便局
電話 0476-52-0363
佐原市役所
電話 0476-333-3326
佐原市松
電話 0476-366-6271
鴨居は鴨居の会へ
鴨居 0476-443-1890
鴨居 0476-71-0828
鴨居 0476-25-3828
鴨居 0476-25-3466
成吉善郵便局
電話 0476-449-4365
京葉郵便局
電話 0476-449-4441
折り込み広告はお問い合わせ
T S 043-248-4511

実測による日本地図を初めて作った江戸時代の測量家。
伊能忠敬(1714-1781)
8年の子孫が12日、忠敬が約30年間を過ごした香取市佐原地区に集まる。昨年、2名主も務めた。隠居後、50歳で江戸へ出て、本格的に米国が国室に指定された資料が国室で指されたを祝うのが主な目的だが、「伊能忠敬研究会」名義代表の渡辺一郎さん(81)によると、ゆかりの地で子孫が一堂に会すのは初めてという。

資料が国宝指定 きょう祝賀会

読売新聞千葉版当日朝刊
(2011.2.12.)の予告記事

伊能忠敬の子孫ら

を完成させた。

研究会は1995年、フランスで発見された「伊能中図」

を佐原で公開したのを機に

渡辺さんらが中心となって設立。その後、江戸東京博物館

報道関係も、共同通信社、NHK、朝日新聞、読売新聞、千葉日報さんが揃っていた。共同通信社内政部次長の橋田さんは昨日、泊つちやつたよ、というお話をだつた。

現場には、札幌の伊能二三代さん、函館からの斎藤夫妻、九州からの琴女の子孫グループ五名など、珍しい方、遠路の方が、多数お揃いだ。この悪天候を跳ね返してのご参加にあらためて敬意を表する。

応じていただいた会員五八名、名簿上ののみ参加としてご寄付をいただいた方二六名、合計八四名にのぼつた。

伊能ウオーカー・オープニングパーティから十一年、久振りの総集合に、

上のみ参加としてご寄付をいただい

た方二六名、合計八四名にのぼつ



小野川沿いの伊能家旧宅



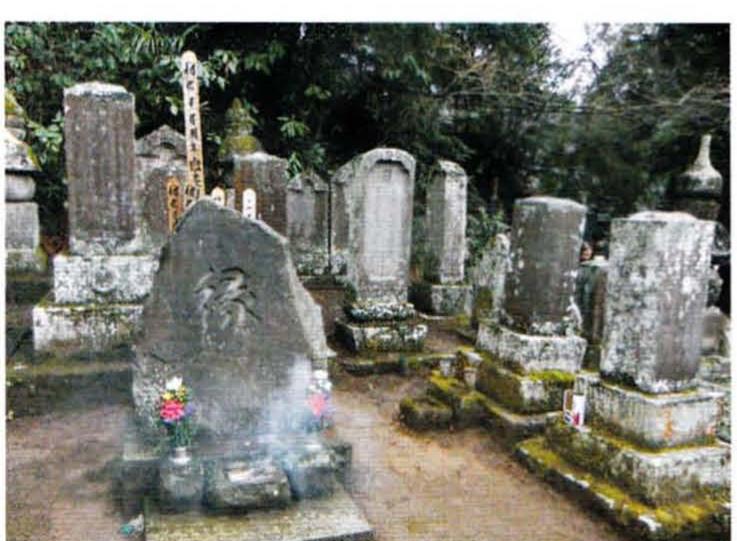
▲伊能家旧宅から窓越しに伊能忠敬記念館を望む



▲子孫の方々と第一部参加者で記念撮影（伊能家旧宅の庭にて）

一同、伊能忠敬記念館の国宝記念展を見学、子孫の方が揃つたところで、旧宅の庭に移つて記念撮影。集まつた子孫は全部で二二五名だった。終わつて居合わせた一同も加えて記念撮影をおこなう。

第一部 伊能忠敬記念館見学と記念撮影・伊能忠敬墓参



市内観福寺の伊能家墓地
右奥が伊能忠敬の墓碑。手前「縁」と書かれた墓碑の下には伊能陽子さんが眠る。



▲墓参風景

一〇時頃から駐車場のマイクロバス三台に分乗し観福寺に移動、伊能忠敬の墓と故伊能陽子さん墓に献花。伊能洋さん父子が用意したお線香をあげた。

第二部

講演と伊能測量関係者子孫交流

墓参を終わったあと、バスにもどり、講演と祝賀会場の潮来大橋際の富士屋ホテル開花亭についたのは十二時ころだった。

会場には先着の高宮家グループが、リボン、宮内会員用意の名札を展開して、受付の準備をしていた。一

同、軽い食事を済ませ、受付を終わったあと、あちこちに交歓の輪が広がる。

十三時十五分講演会。鈴木純子事務局長の司会で講演が始まる。

講演1「忠敬長女・お稲さん夫婦の系譜に関する新事実」

研究会ホームページ・ページ・イノ・ディアの編集幹事をお願いしている戸村茂昭さんが、伊能測量後半に、忠敬のよき相談相手となつた長女お稲さんの血筋について、新発見も含めて解説した。(詳細は十四ページ)講演2「フランス中図の佐原招聘から完全復元伊能図フロア展まで」渡辺一郎名誉代表から、佐原の中央公民館でフランスの中図展を開き、これがキッカケで伊能忠敬研究会を結成、色々な展開をへて今日にいたる経緯が説明された。詳細は



事務局は大物が担当



来賓報道受付のエース

▲
受付風景
▼



子孫・会員受付は若手が担当

会場となった富士屋
ホテル「開花亭」

▲

講演2「フランス中図の佐原招聘から完全復元伊能図フロア展まで」
渡辺一郎名誉代表から、佐原の

中央公民館でフラン
スの中図展を開

き、これがキッカ
ケで伊能忠敬研
究会を結成、色々
な展開をへて今日
にいたる経緯が説
明された。詳細は
経過報告の内容(一〇ページ)を参
照されたい。



鈴木事務局長の司会で講演が始まる



▲
講演会は盛況



十五時から斎藤仁さんの司会で伊能測量隊子孫の出席者が登壇し、伊能洋さん一家、両神保家、高宮家一統、柏木家、奥永渚さん一家が順次自己紹介した。（八ページも参照）



▲ 伊能忠敬旧宅に集合した伊能家縁戚の皆さん

▼ 伊能洋さんと琴女子孫の
奥永さん達



▲ 挨拶のスピーチをされる伊能洋さん



◀ 神保家の本家と分家



◀ 高宮家グループのご挨拶



▶ 柏木家一統

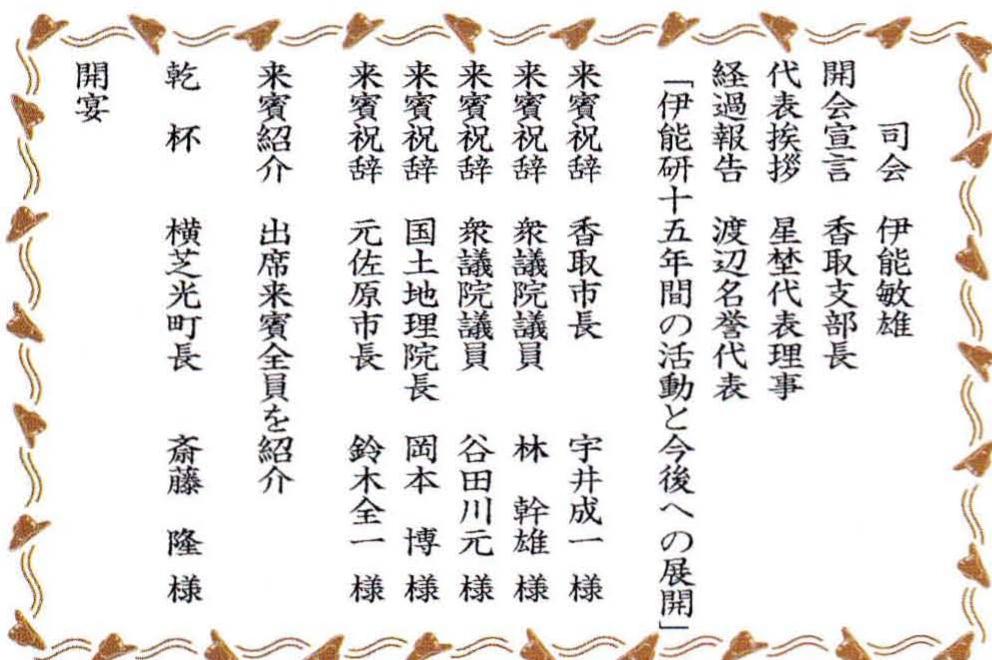


伊能忠敬関係資料 国宝指定記念 伊能忠敬研究会“創立15周年”記念祝賀会

主催：伊能忠敬研究会

後援：香取市・香取市教育委員会

第三部 祝賀会



十六時十五分から
伊能敏雄氏の司会
で祝賀会に移った



林衆議院議員



谷田川衆議院議員



鈴木元佐原市長

ご祝辞をいただいた
来賓の方々



岡本国土地理院長



宇井香取市長





乾杯の音頭をとる
斎藤横芝光町長



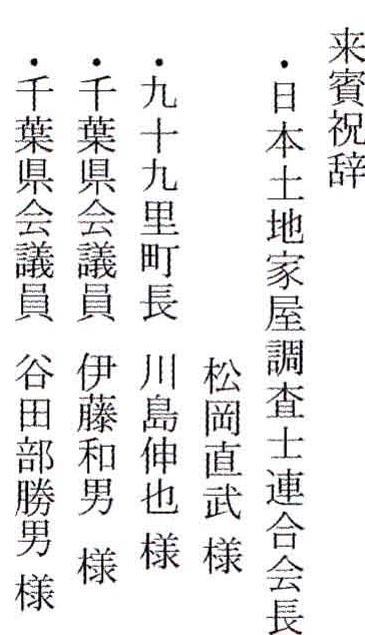
「乾杯！」



祝辞を述べる川島九十九里町長



祝辞を述べる松岡土地家 屋調査士連合会長



斎藤 隆 横芝光町長の乾杯の音頭で宴が始まった。開宴後も香取秀紀氏の司会で來

現在名譽代表を務めておられます渡辺一郎さんを中心伊能忠敬研究会が発足して十五年になるわけですが、先ほどの講演会において、渡辺さんがお話しになつたように伊能図の発見などを中心に様々な活動がなされて参りました。しかし、一昨年、昨年と、渡辺さんとともに伊能忠敬研究及び会の発展に大変なご貢献があつた小島一仁さん安藤由紀子さん、伊能陽子さん、佐々間達夫さんが相次いで鬼籍に入られました。まさに残念なことです、今回の方々のお研究の成果に与るところの伊能忠敬関係資料の国宝指定には、

このたび国宝に指定された史資料以外にも、重要文化財に指定された数々の伊能図、文書や書簡、地方に残された伊能測量の記録など伊能忠敬に関する様々な地図や史料が存在します。それらも含めて我が国の誇る伊能忠敬全国測量を後の世に伝えていく義務を我々は負っているものと思います。

また、これまで夢として熱望しておりましたNHK大河ドラマでの伊能忠敬の採扱も、関係者の間で働きかけを開始され、夢が現実となる方向に向かって進みつあると聞いております。

伊能忠敬の業績などについては、まだ謎の多いのが現状です。このたびの伊能忠敬関係資料の国宝指定を機に、伊能忠敬研究会の場でさらに研究を深め、伊能忠敬の人と業績について国民各位の間にさらに理解が深まるよう努力して参りたいと思つております。本日のご参会、誠に有り難うございました。

ろも多かったのではないかと思
います。泉下で国宝指定の知
らせに大変喜んでおられる
ものと思います。四人の方
する次第です。

忠敬に關する様々な研究、顯彰事業などを行つてきましたが、一昨年から關係自治体、日本写真印刷株式会社（社）日本ウォーキング協会、土地家屋調査士会連合会、（社）私立大学協会など関係団体の支援・協力を得て「完全復元伊能図全国巡回フロア展」を実施して参りました。この三月の下旬には、香取市合併五周年を記念して「完全復

伊能忠敬関係資料国宝指定記念祝賀会の開催にあたって
代表挨拶

伊能忠敬研究会代表理事 星埜由尚

THE JOURNAL OF CLIMATE

伊能忠敬研究会代表理事 星埜由尚



伊能忠敬旧宅で記念撮影する子孫ら。前列左から3人目が伊能洋さん=12日午前、香取市佐原イ

「総集合」は12年ぶり。忠敬から6代目の次男に当たる画家の伊能洋さん(76)は、東京都世田谷区には「子孫が一堂に集まるのはめでたいこと」。国宝指定も最大の喜び。先祖の功績を多くの人に伝えていけたら」と語った。

伊能忠敬 1745(延享2)年、上総国山関村(現九十九里町)生まれ。17歳の時に下総郡佐原村(現香取市佐原地区)の伊能家の婿養子に。引退後、50歳で江戸に出て、幕府天文方の高橋至時(き)の弟子となつた。1800年から日本全国を歩き実施。17年かけて実測地図「大日本沿海輿地図」(伊能を制作した。1818(文政元)年に73歳で死去。高齢の眠る東京・浅草の源空寺に葬られた。

Q 伊能忠敬 1745(延享2)年、上総国山関村(現九十九里町)生まれ。17歳の時に下総郡佐原村(現香取市佐原地区)の伊能家の婿養子に。引退後、50歳で江戸に出て、幕府天文方の高橋至時(き)の弟子となつた。1800年から日本全国を歩き実施。17年かけて実測地図「大日本沿海輿地図」(伊能を制作した。1818(文政元)年に73歳で死去。高齢の眠る東京・浅草の源空寺に葬られた。

保健師、高官志織=東京都練馬区=嫁いだ高官家(東京都練馬区)=ゆかりの地を初め、「来る」ことができました」と話した。その後市内の式典

主催した伊能忠敬研究会によると、子孫のいわゆる「総集合」は12年ぶり。忠敬から6代目の次男に当たる画家の伊能洋さん(76)は、「東京都世田谷区」は「子孫が一堂に集まるのはめでたいこと。国宝指定も最大の喜び。先祖の功績を多くの人に伝えていけたら」と語

（忠敬は）あらためてすごい忍耐力のある方なんだと思った。忠敬のひ孫が嫁いだ高宮家（東金市）の保健師、高宮志織さん（33）によれば、東京都練馬区は先祖のゆかりの地を初めて訪ね、「来ることができて感動しました」と話した。

茂昭さん(70)=山口
敬のサイトを編集す

伊能忠敬の子孫ら集合

関係資料の国宝指定で

日本で初めて実測日本地図を作った江戸時代の測量家、伊能忠敬（1745～1818年）の地図、文書、測量器具など関係資料2345点が、昨年6月に国宝指定されたことを記念した催しが12日、香取市内であり、各地から子孫25人ほどが一堂に集まった。

時間の都合で御挨拶いただけなかつたのですが、多数の珍しい会員、関係者の御参加をいただきました。

まづ横芝光町の神保誠さん。忠敬の父貞恒の生家・神保本家の当主です。元高校の英語の先生でした。分家の神保弘之さんはお婿さんですが、貞恒の立てた分家の当主で、酒々井町の教育

次長さんです。

城の家老の神保長門守の末裔で、小田原落城後帰農して豪農になつたといわれています。戦国文書を所蔵されています。横芝光町の斎藤町長は御親戚です。

高宮グループは、本家・高宮啓明さんほか十二名とお客様二名を含めた御参加です。今回新たに当会のイベントに参加で、DVDの制作を引き受けました。

くなど、大変な御協力をいただきました。高宮家は忠敬さんの長女お稲さんのお末裔です。

平右衛門家は、当主の伊能栄一さま
御夫婦で御出席いただきました。秋の
佐原祭りの諏訪神社の宮司さんで、伊
能測量の図一幅を所蔵されます。（残
念ですが、場所が特定できていません）
彦作家の当主は伊能昇一さま、奥さ
まの和子さまと御参加いただきました。
元千葉ヨクヨの社長さんです。

さんが高宮グループの一員として参加いただきました。千葉市で古書店を営んでおられます。盛右衛門さんは忠敬の養子で、お稲さんの夫です。米相場で失敗して離縁になつたといわれています。これまであまり語られてこなかつた

もうひと組、伊能洋さんの祖母「（う）さん」の妹「ます」さんは、潮来の藤岡家に嫁入りしました。その藤岡家から当主の修一さんと従兄弟の洋一、峰夫さんのお方がお見えでした。

のですが、稻生盛右衛門さんは立派に復活して、稻生勘兵衛と名乗つて子孫繁昌です。

伊能研では、創業時の功労者・学習院名誉教授の斎藤先生が、出席され子孫紹介など担当していただきました。

九十九里町長の川島様は、稻生勘兵衛家と縁続きだそうです。

新沢さんには受付・司会で頑張つても
らいました。

伊能家には親戚として伊能七家といわれる名家が揃っています。本日は茂左衛門家、平右衛門家、彦作家、大作家、の皆様がお揃いで、三郎右衛門家の出で、七左衛門を継いでいる伊能洋さんを加えると、権之丞家以外は

また、深川の富岡八幡の伊能忠敬銅像制作者の酒井先生も御出席です。

みなお揃いということになります。

平山先生は歯科医で、平山郡蔵の末裔といふことでした。

い、幕末に伊能家再興に努力された伊能節軒さんの家筋です。記念館の敷地に家がありました。現在喫茶店を営ん

郡佐原村（現香取市佐原地区）の伊能家の婿養子に。家業を引退後、50歳で江戸に出て、幕府天文方の高橋至時（よしとき）の弟子となつた。1800年から日本全国を歩き測量を実施。17年かけて実測地図「大日本沿海輿地図」（伊能図）を作成した。1818（文政元）年に73歳で死去。高橋至時の眠る東京・淺草の源空寺に葬られた。

敬のサイトを編集する「村
茂昭さん(70)」=山武市=
と、研究会の渡辺一郎名誉
代表(80)の講演会と記念式
典が開かれた。研究会の星
林田尚代表理事(64)は「國
宝指定を祝おうと、多くの
子孫に声を掛けさせてもら
い、集まつてもらえた。大
変意義のあることだと思
う」と振り返った。

今回の催しを紹介した
「千葉日報」の記事（2011.2.13.）

大河ドラマの実現を目指して四首長会談

祝賀会では、色々お願いの結果、香取市、東金市、九十九里町、横芝光町の四人の首長が揃うことになりました。

折角のこの機会に、祝杯だけでなく、伊能忠敬関連の自治体で官民一体となってNHKに要望し、大河ドラマ「伊能忠敬」の実現を図かる協議会をつくつては、という意見があり志の間で持ち上がりました。

香取市長と、香取市経済界の実力者千葉商船相談役の木内志郎さんの了承を得て、祝賀会開始前のわずかな待ち時間を利用して協議をおこないました。

各首長さんの御賛成をいただき、会長には木内志郎さんになつていただきました。

当面、地元の伊能市議、木内志郎さん、木内信次さんと渡辺名譽代表が企画調整をおこなう予定です。

(木内志郎さんは從来から伊能忠敬研究会会員です。木内信次さんは木内志郎さんの親戚ですが、大河実現に意欲を燃やしておられる方です)



伊能陽子さんの墓前に立つ木内志郎氏

(渡辺 記)

マスコミ各社の報道状況

NHKは記念館駐車場に中継車を設置して、東京のNHKからお昼のニュースで「国宝指定を記念し、子孫集合して祝賀会開催」と報じました。

忠敬墓参の場所で、伊能洋さんが「資料を守り伝えてゆかないとならない」とコメントしました。都合で出席できなかつた会員の西川治

先生（東大名誉教授）からお葉書がありました。

「大成功おめでとうございます。NHKのニュース拝見しました。少々体調を気遣い、折角の催しに参加せず、生涯の悔みとなりました。」

共同通信はニュースを全国に流し、地方紙約三〇紙がWEBに掲載しました。二〇紙くらいは紙面にも掲載したでしよう。

天候不良のもと、早朝から活動いただいた報道各社の関係者に、厚く御礼を申しあげます。



我ら忠敬の子孫

測量器具など2345点の資料が昨年、国宝に指定された江戸時代の測量家・伊能忠敬（1745～1818）の子孫らが12日、香取市佐原地区に集まり、忠敬の墓参などをした。伊能忠敬研究会が主催した行事を、江戸時代に住んでいた旧宅前で記念撮影したり写真を撮ったが、50代で測量を受けたことを受け、子孫約30人と研究者ら約10人が12日、旧宅がある佐原に会するの

は初めてだという。

伊能忠敬の地図は、私は40代で介護福祉士の資格を取

りた。忠敬から7代目に

受けたことを受け、子孫約30人と研究者ら約10人が12日、旧宅がある佐原に会するの

は初めてだといふ。

伊能忠敬の地図は、私は40代で介護福祉士の資格を取</

渡辺一郎名誉代表
「フランス中國の佐原招聘から

完全復元伊能図フロア展まで



【スライド①】伊能忠敬研究会の

十五年前の一九九五年十一月十七日に佐原の中央公民館でフランス伊能中図の里帰り展が開かれ、三、三〇〇名もの多数の来場者がありましたが、この会はこれをキッカケに結成されました。

【スライド②】 結成後まず仕掛けたのが江戸東京博物館への伊能忠敬展の提案でした。九六年八月に提案して十一月に内定をいただきました。朝日新聞と組みたいとのお話で困りましたが、話が通じて、JWAの木谷様と朝日の清水健宇さんという方が見えました。伊能ウオーカーの計画を進めているので、協力してほしいとのお話をしました。

スライド ①

佐原のフランス中図展 1995年11月



フラン西にあつた伊能図を公開し 討論会

スライド ②

—絶ゆまぬ努力と天賦の才—
伊能忠敬

江戸東京博物館で 伊能忠敬展開催

入場者111,399人
開館5年目だったが、
入場数第3位
第2位はシーボルト展
だった

ポートと今回国宝指定された記念館の伊能大図六九枚の模写図のニア展に大活躍をしていただきまし

俳優座の映画に先立つて、NHKから二〇〇一年のお正月時代劇に伊能忠敬を取り上げるので、協力を致しました。

博の伊能忠敬展、伊能ウオークの企画を聞いて、俺も前から考えていたのだと、途中から入ってきて二考協力プロジェクトとなりました。俳優座はウォーク中に新国立劇場で演劇をおやりになり好評でした。終盤になつてから映画を発表されました。両方とも測量場面の指導

木市長がNHKの海老沢会長に頼んで実現したものだそうですが、当時は知りませんでした。主演の橋爪功さんにレクチャーのため京都に行つたり、江戸博館長の竹内先生と脚本の読み合わせとか、測量現場の撮影指導に二〇日間も付き合いました。

スライド③



【スライド⑤】いっぽうで、伊能ウォーク終了をうけて、記念碑建立の話が持ち上がっておりました。何気なく銅像という案もあるのでは、と申しましたところ、それがいいとなり、忠敬銅像を作ることになりました。といつても彫刻家に知り合いまして。七代目の伊能洋久先生を紹介していただきました。本日お出でです。

私は実行委員会事務局長を務めました、二〇〇一年三月十五日

スライド④

俳優座の演劇・映画「伊能忠敬」制作を後援

1999.12.10~27 江戸博の伊能忠敬展、伊能ウォークと共にプロジェクトを組んでいる俳優座が、新国立劇場で「伊能忠敬物語」を上演。全22公演、開演前に全席完売した。
主催：俳優座。朝日新聞社
後援：伊能忠敬研究会、日本ウォーキング協会、佐原市



スライド⑤

伊能測量出立地・富岡八幡宮で2001年10月20日 除幕式



伊能忠敬の銅像が富岡八幡宮(東京)に!!

伊能忠敬の銅像が富岡八幡宮(東京)に!!



制作中の酒井氏



関係者募金を決めて約六ヵ月で二二〇〇万円余が集まり、十月二〇日に、伊能洋さんが監修、酒井道久さん制作の伊能忠敬銅像が、伊能測量出発地、深川の富岡八幡の大鳥居脇に建立されました。

伊能ウォークおよび地図測量関係諸団体の他、香取市、九十九里町、横芝町からも浄財のご寄付をいただきました。変ったところでは朝日新聞一〇〇万円のほか、読売新聞からも同額のご寄付をいただきました。これは大変珍しいケースだと思います。

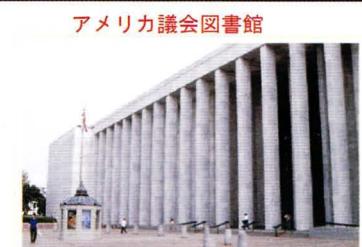
たまたま時間があって、ワシントンのモールを歩いていて、議会図書館が目につき、ここは一応調べなければと思い、軽い気持ちで入ってみました。ところが、バッタリ伊能大図でした。

【スライド⑥】伊能ウォークのあと、読売さんが朝日に対抗してアメリカ・ウォークをやるという話がありました。ウォーキングの知り合いが出ると聞きました。そのとき、私は家内とカリブ海クルーズを計画しており、帰りにワシントンに見送りに出ました。

時間的に伊能大図全部を調べられないでの、他日を期して図書館を去り、国土地理院で参事官だった星埜さんに相談して調査団を作りました。六月十八日再度訪問、一週間かけて全図を確認し七月五日新聞発表しました。朝日は一面トップ、読売は社会面の半分以上をさいて報道しました。

模写図二〇七枚と出会いました。この話信じて貰えませんが事実です。二〇〇一年三月末でした。

スライド ⑥



アメリカ議会図書館



アメリカ大図発見当時の状態



調查風景

スライド ⑦



アメリカ大図幕張フロア展



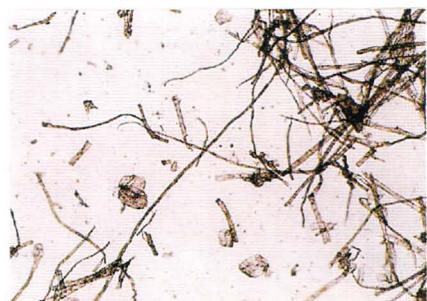
各地で博物館展4ヶ所
フロア展18ヶ所開催

スライド ⑧

フランス由図ボロボロ



1955年版「日本の技術で補修を」



欠損部の補充のため 成分を分析 用紙を制作

力大図を日本に持ってきて展覧会をやろうというお話です。学術調査のときから、展覧会をやるから貸してほしいと頼んでいたのですが、たまたま日本テレビと口ケについて、OKを貰いましたので、具体化させました。国土地理院、土地家屋調査士会さん、測量設計業協会さんなど地図測量関係の諸団体と中日新聞、共同通信社のお世話になつて、アメリカ大図のフロア展一ヵ所、実物を展示する博物館展四ヵ所が開催されました。ここでも実行委事務局長を務めました。

【スライド⑧】このとき、佐原で展示了したフランス中図をもう一度、正規な博物館展で展示し、うまくいつたら日本に買い取りたいと考え、家内と借用にゆきました。ところがボロボロでひどい状況でした。ガッカリしましたが、帰つて国土地理院の星埜院長に地理院で直してもらえないかと相談しました。

結論は、地理院では直せない。マスコミを通じて呼び掛けては、といふことでした。見通しは暗いなど、思案しながら事務所に戻りますと、

共同通信の橋田さんから電話です。今日も先ほどから会場を取材していらっしゃる方です。「何か変わった話ないですか」といわれてビックリしました。

募金の話なので、日本経済新聞さんにでも頼みこもうかと思つていたところでしたので、一瞬迷いましたが、「縁だからと割り切り、こういう話があるのでですが」と、いつたところ、それ、うちにやらせて下さい。すぐ伺います。と事務所にお出でになつて、目の前で原稿を書いて送信され、翌〇三年六月十三日の地

方紙社会面にカラーで掲載されました。

すると翌週六月十六日に、京都新聞を見た京都の日本写真印刷さんの部長さんが見えて、無償で修復を申し出られビックリしました。補修を指導ましたが、まず補修の用紙作りです。成分分析をおこないましたが、三層構造で、第一層は竹紙、第二層は楮、裏打ちの第三層も楮でした。忠敬さんここまで気を使っているんですね。驚きました。これがご縁でフランス中図は日本写真さんに買い取ってい

スライド ⑨



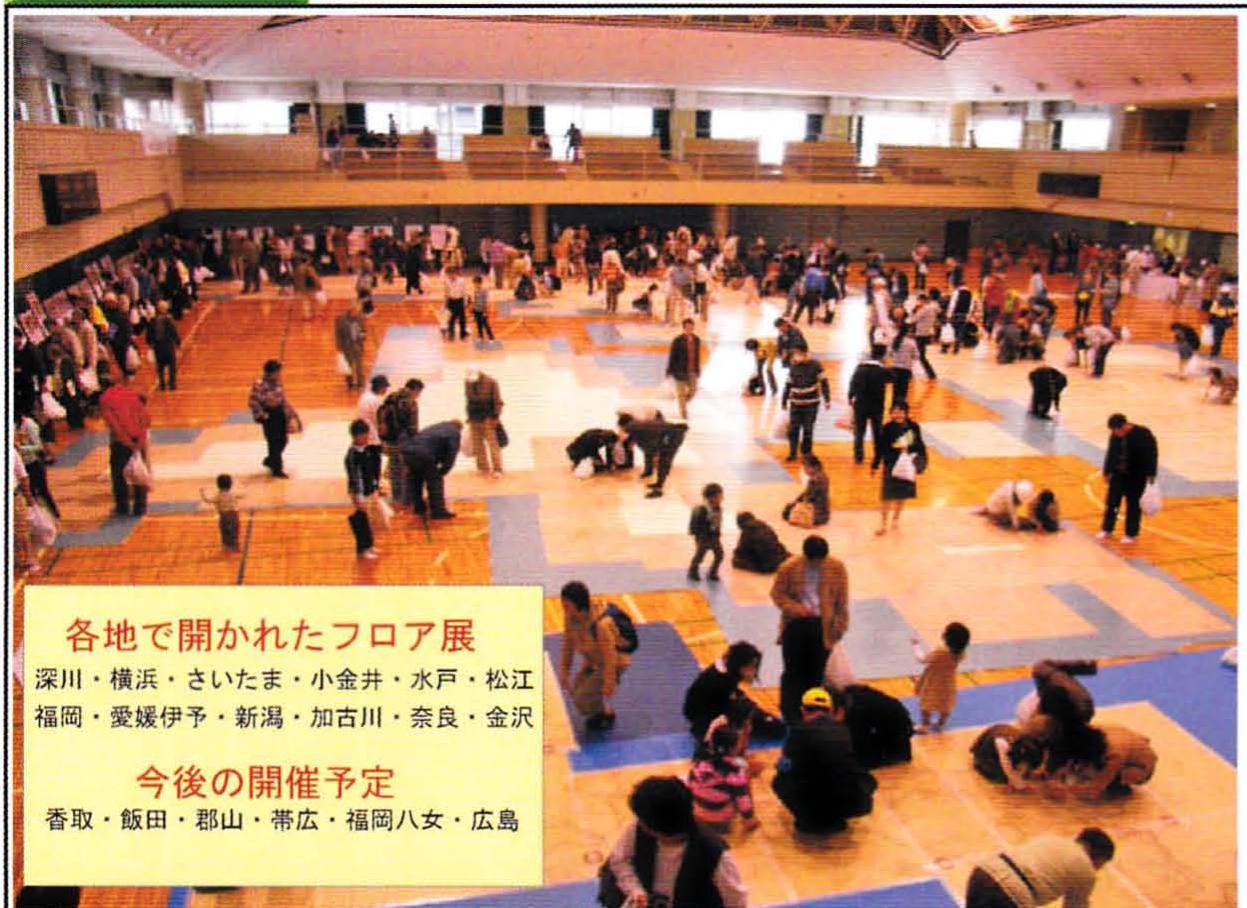
スライド ⑩

伊能大図総覧を刊行 2006年 海上保安庁の伊能図を全数調査2007年

アメリカ大図展の一環として豪華本の記念出版を意図したが、手を挙げる社はなかった。
河出書房・日本地図センター共同出版に漕ぎつけ1部20kg
定価399,000円、の豪華本300部を1カ月で完売した。



スライド ⑪



ただきました。京都国立博に寄託される予定で、現在大谷大学に暫定寄託中です。

【スライド⑨】 それにしても、大図はアメリカに二〇七枚、国内に三枚はわかりましたが、どうしてもあと四枚不足です。あれこれ迷いましたが、孫写しであるため、調査対象でなかつた海上保安庁の伊能大図を、鈴木純子さんと、あらためて調べました。そうしたら形はえらく違うが、原図は伊能図という四枚を発見、二一四枚全部が揃うことになりました。二〇〇四年七月一日、海上保安庁と国土地理院の係官陪席のうえで、伊能忠敬研究会から記者発表、大ニュースになりました。

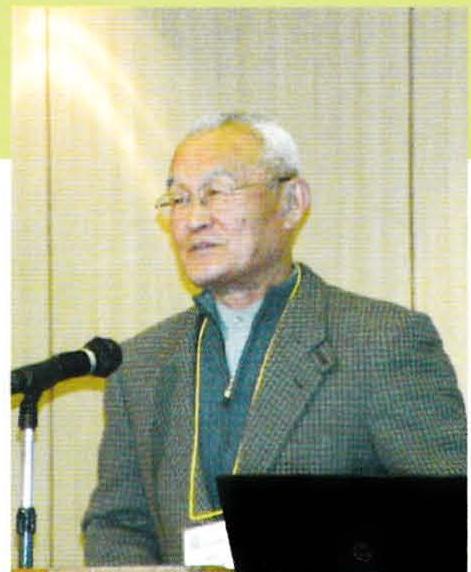
【スライド⑩】 二〇〇六年十二月には判明している国内外の優良な最終版伊能大図を集成した伊能大図総覧を刊行。二〇kg、三九九、〇〇〇円の大冊ですが、一ヶ月で完売し、購入者の六〇%は個人でした。そのあと本冊をベースに海上保安庁が保有する伊能図写し一四七枚を全数調査し、三枚の優秀な模写図を発見しました。

【スライド⑪】 二〇〇八年から第二次伊能ウオーカー計画に合わせて、完全復元伊能図フロア展を計画しました。第二次伊能ウオーカーはウォーカ日本一八〇〇に変身、フロア展用復元図は私が監修して二〇〇九年に完成し、これまでに二カ所でフロア展を催行しました。観客の声は、伊能忠敬はよく知っているが、これほどの大仕事をしたとは知らなかつた、という者が大部分です。香取市では三月二五日から三日間、中央体育館で開催予定です。是非ご観覧ください。

そして昨年六月の国宝指定です。

忠敬さんは、演劇、映画、お正月時代劇から国宝まで上り詰めました。あとは、大河ドラマ位しか残つておりません。地元関係市町連携して、伊能忠敬にゆかりの自治体と地域住民に呼び掛け、全国的ネットワークにより実現したいと考えます。皆様のご協力をお願い申上げます。

戸村茂昭（Inopediaを作る会 編集幹事）
「伊能忠敬の長女・お稲の血筋についての新事実」



「伊能忠敬と伊能図の大典 Inopedia」と題するホームページの編集幹事をしている筆者は、「伊能忠敬研究会報」に掲載されている史・資料を、ホームページのコンテンツとしてアレンジする作業を日常的におこなっている。

したがって伊能測量の後半における忠敬の長女お稲の活躍はよく承知しているが、夫・盛右衛門亡き後の自らの家庭についての話題が伊能忠敬研究会報に登場することが少なく、不思議な感じを持っていた。ところが偶然、研究会報第22号に掲載の記事「伊能忠敬周辺の人々（執筆・加藤時男）」の中に筆者の高校時代におけるクラスメイトの生家の名前が登場したのでビックリし問い合わせると共に、周辺資料を調べてみたところ、意外な事実がわかつたので報告する。

〔伊能忠敬周辺の人々〕（披粧）

〔高宮家は大谷亮吉著『伊能忠敬』などにより、忠敬の孫一人（稲の娘）が相ついで嫁いだとされる家である。はじめ妹の秀が嫁いだが早逝したため、後に姉の折枝（婚家先で夫をなさそうである。」

第一 部 の 講 演 会 で は、
Inopedia編集幹事の戸村茂昭氏からお稲さんの血筋に
関して新事実に基づく興味深いお話しがあつた。

くしていた)が再婚したと云われている。高宮家御当主からの伝聞によると、析枝が再婚の際に持参したとされる「茶道具」や「服紗」も保管しているとのこと。また仏壇には姉妹の位牌と、更に御当主並びに推定する女性一人の戒名が併記された次のような位牌もあつた。

如実院妙柏日真信女

高宮家五代当主
弘化二年 三〇才

徳見院是相日頃信士
明治十四年 七四才

徳実院妙功日柏信女
明治十三年 六九才

しかし、位牌に刻まれている歿年並びに年令から推定して、この二人を稲の娘とするには疑問が残る。…（中略）…

なお、昭和十二年に忠敬の生地、九十九里町小関に徳富蘇峰の筆になる「伊能忠敬出生之地」と刻まれた記念碑が建立されているが、碑の側面には贊助者として、千葉市

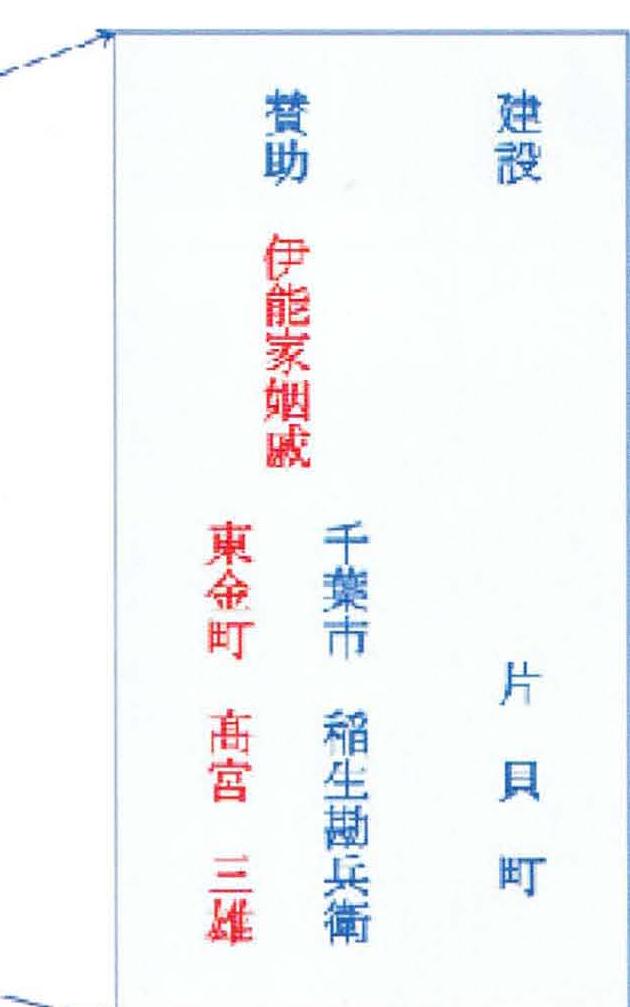
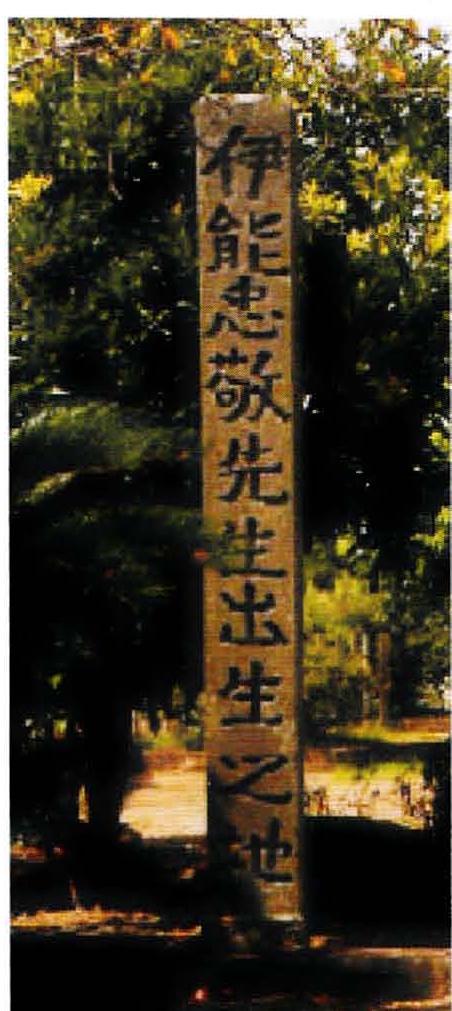


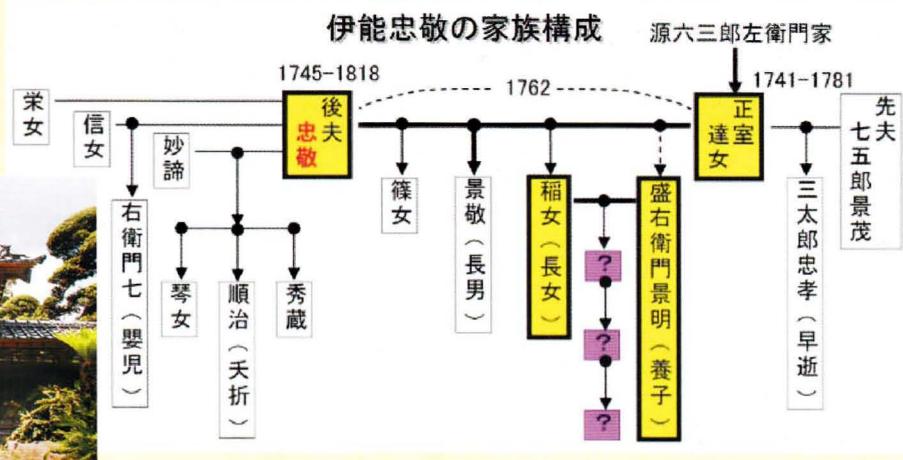
図1 伊能忠敬記念講演の記念碑と側面の刻字

この記事において、位牌の歿年、年令から推定してこの二人を稲の娘とするには疑問が残るというくだりに引っかかるものを感じ、調べた結果が本稿である。

一一一 「伊能忠敬先生出生之地」と刻まれた記念碑側面の碑文記述の再確認

一 既存の資料等における伊能忠敬と高宮家との由縁に関する記述の再確認

（伊能忠敬の長女・お稲の血筋についての新事実）



伊能忠敬の家族構成（上）と 稲女勘当罷免状の発見を報じる新聞記事（下）

参考 お稲勘当の一件

忠敬長女お稲は一度勘當されたと伝えられたが、証拠はなかった。ところが、お稲の勘當赦免状が大阪の古書市に出た。という知らせをうけて驚いた。産経新聞社会部の伊藤記者に飛んでいただいて、原文の入手ができた。伊藤栄子さん、故安藤由紀子さん、故伊能陽子さん、などベテランが分析して本物と判断できたので、記事にしてもらつた。記事にしてもらつたという。現在の沢山の入札があつたが、指値が高くて落ちなかつたといふ。所有者は分かつてない。

(渡辺一郎記)

「伊能地図」唐津藩にも

伊藤忠敬 「江戸時代酒の地理学古酒研究」。1745年に埼玉県(千葉県)に生まれ、家業の酒造業を父と經營していたが、50歳すぎで幕府大奥方に入門。が夫を亡じ、病身の上、南門ら親類八人あてに書かれた。「勘定した長女の桶

忠敬の自筆メモなど発見…裏付け

長女の勘当も証明

『論争』に決着

伊能氏の出、上総の国
山辺郡片貝村の姻戚
布留川某の男景明（通
称を盛右衛門）といふ
を養ひてこれを配す。

新たに発見された伊能忠敬白筆の書
籍(上)と(下)

新たに発見された伊能忠敬自筆の書
記(上)と(下)

記述
①明治四四年多田屋書店発行、加瀬宗太郎編纂『偉人伊能忠敬』「忠敬に四男三女あり、…(中略)…長女伊能氏の出、上総の国山辺郡片貝村の姻戚布留川某の男景明(通称を盛右衛門)」といふを養ひてこれを配す。

三六年（昭和十一）當時の片貝町長及び伊能忠敬研究家の中村城氏が中心となり、この地区の出身で中央の各界に多数の知己を持つていた久我貞三郎が徳富蘇峰に依頼した書跡を刻して建立したものであるという。

は何度も見ていたが、記念碑の側面にこういう名が刻されているとは思いもしなかった。稲生勘兵衛はお稲の夫盛右衛門の家系である。また、高宮三雄とは友人の家の先代の当主で父上であるという。

記述 一二一 先行資料での

三六年（昭和十一）當時の片貝町長及び伊能忠敬研究家の中村城氏が中心となり、この地区の出身で中央の各界に多数の知己を持つていた久我貞三郎が徳富蘇峰に依頼した書跡を刻して建立したものであるという。

は何度も見ていたが、記念碑の側面にこういう名が刻されているとは思いもしなかった。稲生勘兵衛はお稲の夫盛右衛門の家系である。また、高宮三雄とは友人の家の先代の当主で父上であるという。

亮古編著『伊能忠敬』

後ち故ありて景明通称を加納三郎
兵衛或は三郎治と改め、夫婦片貝
村に移往せしが、景明歿後家に帰
り剃髪して妙薰と号せり・」とあ
るが、お稻の子孫に関する記述は
ない。

②大正六年岩波書店發行、大谷亮古編著『伊能忠敬』

又盛右衛門の後は稻生勘兵衛たるものこれを承け其後下総国千葉町に往せしが勘兵衛は単に盛右衛門の家名を継続したるに止まり稻女と血縁あるものにあらざればここには却つて毫も忠敬の血統を伝ふる所なし。

・・・中賂・・・（以上、伊能源六及妻の見聞実談）」とある。

③昭和三二年発行 平柳翠著
『偉人伊能忠敬翁とその子孫』

「長女妙薰稻女は一七六三年の
宝曆十二年二生まれ、父忠政翁の

宝暦十三年には生まれ、父忠敬翁の
実家である神保家の姻籍に当る山

辺郡川間村（今の千葉県山武郡十九里町片貝）の布留川弥兵衛の

三男小野八を入婿婚姻し、盛右衛門景明と名乗らしめて江戸小網町



図2 高宮家五代目当主夫妻の墓石

●二代は一八一六年の文化一三年閏八月六日に歿し、その配は一八三五年の天保六年二月二十五日に歿し、

趣旨を述べると、「うん、俺んちは伊能忠敬の末裔だから、お前たち（友人の兄弟姉妹たち）はご先祖様の顔に泥を塗るようなことをしてはならないぞ、とオヤジや祖母等から聞かってきた。……」と語り、伊能忠敬と友人の生家との間に由縁があることを明確に認識していた。（高校時代は座席が隣同士だったにも拘わらずそのような話は聞いたことが無かつた。）また、次のように出来事があったという伝承がある。

盛右衛門景明は稻女との間に長女折枝、次女秀女を挙げている。盛右衛門景明は一八一〇年の文化七年に行年五十五歳で没した（蓮克院景明日徳信士）。その時点で稻女は剃髪して妙薰と称し、佐原へ戻って甥の忠誨の慈母的後見者となると共に、父忠敬翁の測量製図の助手でもあった。一八二三年の文政五年稻女改め妙薰は佐原で没し佐原の観福寺に葬られた。なお観福寺の墓石とは別に片貝の墓地にあつた夫盛右衛門景明の墓石にも「華光院妙薰日明信女」と妙薰の戒名が併刻されている。

いる様子が感じられた。

三・疑問点解説の実地調査

三一 高宮家の墓地の調査

友人が認識していた高宮家の伝聞や大谷亮吉著書の記述や生誕地公園の碑文などから、「高宮家は伊能忠敬の血統を受け継いできた末裔である」とは確かにようである。「位牌の歿年、年令から推定して、この二人を稻の娘とするには疑問が残る」という点について、更に調べて見ることにした。

高宮家の墓地は東金市押掘にある最教寺（顕本法華宗）で、境内の向かって左に高宮家の墓地があつた。

問題の戒名を記した墓石は高宮家の所には花嫁装束の折枝の姿が現れたという。それを見た佐原の人たちは、折枝に何かあつたに違いないと話し合っていたところ、折枝の亡くなつたことを知らせる早馬が到着したという。

墓石に刻まれていた歿年月日は次の通りであった。（図2参照）

如実院妙相日真信女

弘化二年正月二七日

徳見院是相日巧信士

明治十四年七月十一日

徳実院妙功日相信女

明治十三年三月二日

戒名と歿年月日だけでは疑問点を解説できるデータにはならないので、石の側面を見たところ「秀」

「折枝」及び高宮家五代目当主藤

盛右衛門景明のその後の家系を墓石の情報などから調べた結果はつきのとおりである。

●初代（盛右衛門景明（稻女の亭主））は一八一〇年の文化七年に五

二・伊能忠敬との関係についての高宮家の認識

友人宅を訪問し「やあ、めずらしい。よく此処が分かったね」との挨拶に続いた旧交の会話を後、訪問の

総国押掘村の庄屋高宮藤右衛門広成に嫁し現在までその血流は続いている。」とあり、位牌などによつて把握したお稲の子孫に関する系譜を記述している。

而して妙薰稻女の息女は共に上

島家には高宮家三代目当主の次女であると同時に折枝・秀女の夫である高宮家五代目当主の叔母にあたる人が嫁していることがその後の調査で判明した。）

●四代勘兵衛は一九三九年の昭和十四年十二月二二日に没した。出生地の建碑に挙金している。

高宮家五代目当主の繼室の折枝が亡くなった夜、佐原では、長押の所には花嫁装束の折枝の姿が現れたという。それを見た佐原の人たちは、折枝に何かあつたに違いないと話し合っていたところ、折枝の亡くなつたことを知らせる早馬が到着したという。

また、高宮本家の当主宅を訪問したところ、床の間には伊能大図総覽が立て掛けられていた。更に、高宮家五代目当主繼室の折枝さんの娘子や「・：姑稻生：・」と表現された高宮家六代目当主追悼掛け軸などが大切に保管されていたり、二人のお子さん（三姉妹）の名前には忠敬の「敬」や勘解由の「由」や折枝の「折」の文字をつけるなど忠敬との由縁に敬意を表して

墓石を訪問し「やあ、めずらしい。よく此処が分かったね」との挨拶に続いた旧交の会話を後、訪問の

墓石の情報などから調べた結果はつきのとおりである。

●初代（盛右衛門景明（稻女の亭主））は一八一〇年の文化七年に五

盛右衛門景明のその後の家系を

墓石の情報などから調べた結果はつき

右衛門・広成に関して詳しい「墓誌」が刻まれていた。(図3参照)

〔墓誌解説結果〕

同郡片貝村稻生勘兵衛三女秀嫁
干高宮辰治郎弘化二年正月二七
日嬰病歳三十而歿有一女亦早世
也

高宮廣誠五男幼名辰治郎後称藤

右衛門廣成歳三十七而亡妻其後

娶其姉折枝生嫡子辰治郎明治十

四年七月十一日以壽卒齡七十四

同郡片貝村稻生勘兵衛長女通称

折枝初嗣稻生保家不幸為寡後江

戸及妹秀女喪改嫁高宮廣成明治

十三年三月二日病没壽六十九季

依遺言葬于新墓

家翁在之日遣稻生某於水戸購墓
石一基以當碑材然而翁之病終不起
以故予不肖繼其遺志築累世之

法号及築累於一石以為墓誌

惟明治十四年十一月上総国山辺
郡押掘村高宮辰治郎清誠

この墓誌の記述によつて、お稲の

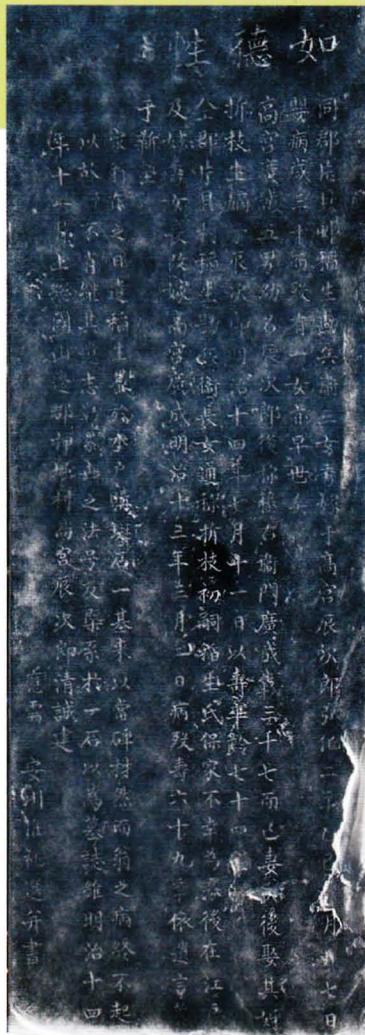


図3 高宮家五代目当主夫妻の墓誌

〔折枝に關して墓誌が語つている事柄〕

〔初嗣稻生保家〕・初め稻生家を

・「秀」は三十歳で亡くなり、その時、夫の年齢は三十七歳だったこと、

④「折枝」については、より具体的に次のような興味深い生涯であったことが判明した。

①「秀」と「折枝」は「稻女の娘」ではなく、「稻生勘兵衛の娘」という表現であったこと、

②「秀」は次女でなく三女であったこと、

③「秀」は三十歳で亡くなり、その時、夫の年齢は三十七歳だったこと、

や新たな事柄が次のとおり判明し

た。



図4 盛右衛門・お稲の墓石

嗣ぎ、家を保つ
不幸にして寡婦となつた。

（戒名）は次のように解説できる。
蓮克院景明日徳信士

華光院妙薰日明信女

この墓石は当初は九十九里の北

増南にあつたもので、昭和四〇年ごろ、五代目稻生勘兵衛さんが千葉の菩提寺に移転したものであるとい

う。不思議なことにこの墓石には二代目稻生勘兵衛夫婦の戒名も側面に刻まれているが、盛右衛門景明・妙薰の場合は歿年が刻まれていない。また、妙薰は盛右衛門景明の歿後十二年後に歿したにもかかわらず戒名の刻み方には筆跡も配置も同時期に歿したかの如く整然と揃つている。

三二一 稲生家の墓地の調査
次に稻生勘兵衛家の墓石を探しました。前掲の『偉人伊能忠敬翁とその子孫』から現存する稻生勘兵衛家を突き止め、子孫の方の情報から千葉市にある本敬寺常光閣に存在していた稻生勘兵衛家の墓所で次のように確認できた。

●二代目稻生勘兵衛夫婦の墓の碑文
図5の画像は盛右衛門景明・妙薰

●初代盛右衛門景明・妙薰の碑文
図4に掲載の画



図5 二代目稻生勘兵衛の墓石

図6 三代目稻生勘兵衛の墓石

の墓石の向かって左側面に刻まれて
いる「一代目稻生勘兵衛夫婦の碑文」
で次のように解読できる。

福相院法規日身信士

文化十三年八月

偏照院妙身日個信女

天保六年二月

残念ながら歿年齢が刻まれてい
ないため、生まれた年を解明する」
とは不可能である。

●三代目稻生勘兵衛夫婦の墓の碑文

図6の画像は同じ墓所の向かって
左側の奥に存在する墓石に刻まれ
ている「三代目稻生勘兵衛夫婦の碑
文」で次のように解読できる。

正清院法定日勤居士

正清院妙法日孝大姉

なお、これら稻生家の墓石で気付
いた」とは戒名の格に差がある」と
であつた。三代目勘兵衛夫婦の場
合は「居士・大姉」であるのに比し、
初代及び二代目の戒名は格下の戒
名とされる「信士・信女」であつた。
これは三代目勘兵衛夫婦が両養子
であつた」とから、多分、実家にお
ける戒名の格に合わせたものであ
る。

四一 考察

四一 折枝・秀の出生年
墓誌に刻まれた歿年と歿年齢か
ら、姉妹の生まれた年を計算すると
以下のような結果となる。

四一 折枝・秀の両親は?
一方、伊能忠敬、伊能盛右衛門
景明、伊能稻の生・没年に関する
歿年が天保六年二月(一八三五)

数字は
・伊能忠敬 一七四五年延享二
・伊能稲 一八一八年文政元
・盛右衛門景明 一七五五年宝
暦五〇一八一〇年文化七
・伊能稲 一八六三年宝暦十
三・一八二三年文政五
とされている。

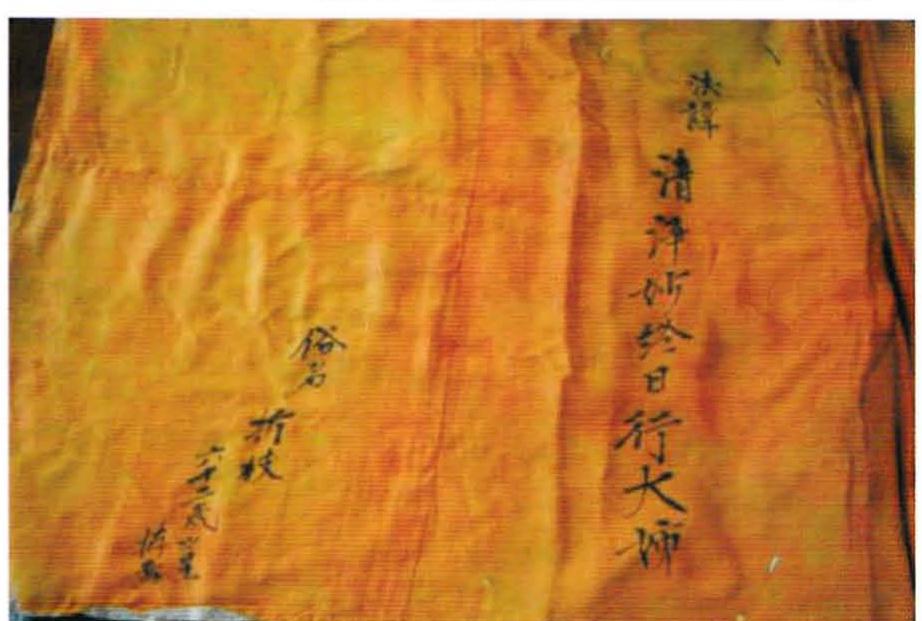


図7 折枝の帷子

ため「秀」と「折枝」の夫である藤右
衛門の数字(歿年一八八一、歿年
七四及び「秀」をなくした時の年
齢三七)から墓誌の記述の信憑性
を確かめると

・藤右衛門 明治一四歿(一八
八一)・七四才・1881-74+1=1808
生まれ・1808+37=1845・一八
四五(弘化二)で秀の歿年に合致す
るので、墓誌の記述は信憑性が高い
ことが裏付けられる。

一方、盛右衛門景明・妙薰の実子
に関する具体的な史実は残されて
いない。稻が妊娠していたらしいこ
とを暗示する史料が忠敬の畏友で
ある飯高惣兵衛の書簡に見える
みである。一代目勘兵衛の歿年が
文化十三年八月(一九一六)、妻の
孫によれば、折枝は高宮家の後配

五 その他
五一 高宮家に遺る折枝が残さ
れた帷子の謎
この帷子に墨書きされている戒名は
高宮家の墓石に刻まれている戒名
と異なつており、むしろ折枝の先夫
といわれている直江一修の墓石に
併刻されているものと同一である。
これこそは墓誌に残された依遺言
葬干新墓を裏付ける証拠物件に違
いない。『偉人伊能忠敬翁とその子

であるから、姉妹を生んだ年代には生存していたことになる。折枝夫婦とするのが妥当なようである。

折枝の生まれた一八一二年 稲
は四八歳 盛右衛門は既に故人
秀の生まれた一八一六年 稲
は五二歳 盛右衛門は既に故人
という関係になり、秀と折枝が稻
の娘(忠敬の孫)といふことは物理
的に成立しない。

五一 高宮家に遺る折枝が残さ
れた帷子の謎
この帷子に墨書きされている戒名は
高宮家の墓石に刻まれている戒名
と異なつており、むしろ折枝の先夫
といわれている直江一修の墓石に
併刻されているものと同一である。

これこそは墓誌に残された依遺言
葬干新墓を裏付ける証拠物件に違
いない。『偉人伊能忠敬翁とその子

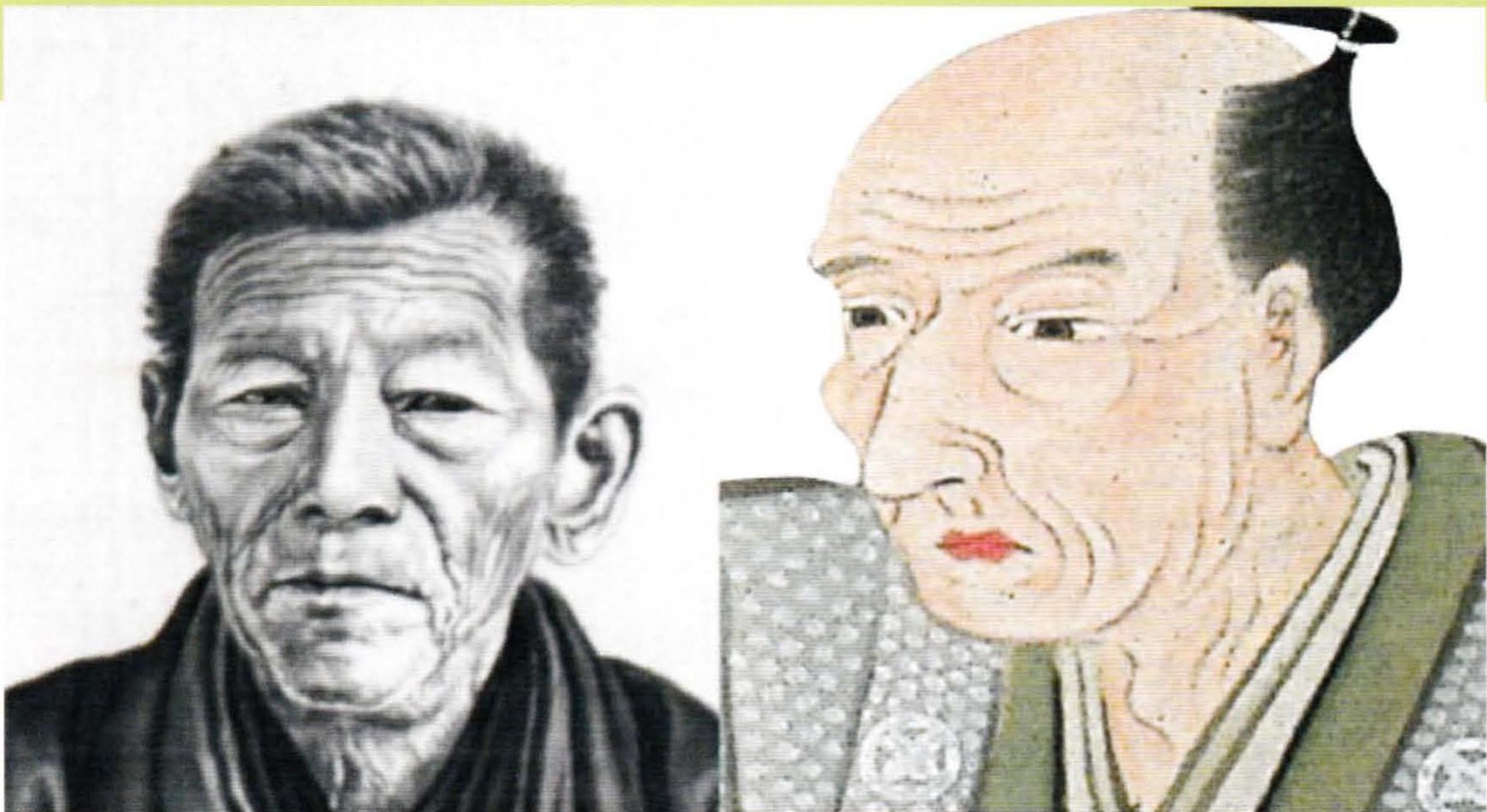


図8 忠敬翁と曾孫・辰治郎の肖像画

に入る前、江戸の幕臣直江一修に嫁したという。直江一修は後に十九里の中里で医業に従事し、天保十五年（一八四四）四九歳で歿したという。秀女の歿する一年前であつた。直江一修と折枝の間には児はなかつた。

五二一 墓誌に記された折枝の生涯の意味するところ

盛右衛門景明の家系は前述のとおり三代目勘兵衛が両養子であつたという。なぜ稻生家は両養子を迎えるを得なかつたのか？

高宮家の墓誌には、折枝について次のような興味深い記述が目に付く。

初嗣稻生保家不幸為寡 後江戸：依遺言葬干新墓

このような墓誌を敢えて残した背景を想像してみる。折枝は自分の波乱万乗の生涯を生前折りに触れて家族（夫の藤右衛門や実子で墓誌を創立した辰治郎）には話していた筈である。そのことを子孫に伝えるため墓誌に残そうとしたのではないだろうか。

家翁在之日遣稻生某於水戸購墓

石一基以當碑材然而翁之病終不起以故予不肖繼其遺志築累世之法号及築累於一石以為墓誌という極めて積極的な意思を含んだ表現の墓誌はまさにその目的のためであつたようにしか解釈できない。こ

の文言の意味は次のように解釈できる。

折枝の夫の藤右衛門は生前に叔母が嫁して姻戚となつて川島家から稻生家に養子に入った三代目稻生勘兵衛に命じて、墓誌建立にふさわしい石材を購入させた。実際にこの墓石は拓本をきちんと採取できる良質な石材で出来ている。

その波乱の生涯とは次のとおりだつた。

初嗣稻生保家

秀女が一歳、折枝が五歳のとき、姉妹の父親である二代目勘兵衛が歿したことから稻生家としては家名（勘兵衛家）を保つ必要性から取り急ぎ長女の折枝を家長として届け出た。この結果、折枝は僅か五歳で稻生勘兵衛家の家長になつた。

不幸為寡

家長になつた折枝には許婚が居たのであろうか、不幸にしてその許婚が若死にしたらしく折枝は実質的に寡婦となつてしまつた。

後江戸

傷心の折枝は江戸に出た。その江戸で幕臣直江一修に嫁すことになつた。そこで家名（勘兵衛家）を保つ必要から妹の秀が嫁していた高宮家の姻戚でもあつた川島家の子弟の一人を養子にして稻生家を相続さ

せた。

及妹秀女喪改嫁

その直江一修は不幸にも四九歳（折枝三歳の時）で歿してしまつた。更にその一年後、高宮家に嫁していいた妹の秀も病で歿してしまつた。妹には六歳になる雅女という名の幼子が居たのでその養育のため、自分が改めて高宮家に後配として嫁すことになった。

依遺言葬干新墓

後年、折枝は六二歳のとき、直江一修と夫婦であつたことの証として帷子を作り、直江家としての戒名を墨で書いて直江一修の墓参りをして、その墓石に自分の戒名を刻んだ。

五二二 「DNA」からの考証

図8に掲げる画像は、左が折枝の長男の辰治郎の肖像画であり、右は先刻承知の忠敬翁の肖像画である。頬骨の張り方、額の皺の形、高い鼻梁など似ていませんか？

研究会十五周年に際して



伊能 洋

そしょんばーと、香取市長始め、来賓、招待客などの方々が出席され、賑やかな会となりました。私は伊能陽子の三名の創立者で、阳子が居たこと、遠くから未だ何メ

の殆どの方が出席されて賑やかな会となつた。ひと言に忠敬先生のご同慶の至りになりました。

正午には潮来大橋のたもとにある開花亭に移動し、午後の講演会、懇親パーティーなどほぼ来ました。予定通りに進行することが出来ました。

前日の春の大雪など、多くの悪条件が重なりました。しかし、百人を越す参加者を得て関係者一同胸をなでおろす盛会となりました。

午前十時から旧宅書斎前で孫ら集合の記念撮影があり三十名ほどが並びました。NHK他各新聞社の取材を受けた後、観福寺の忠敬墓所と陽子の墓参りました。恐縮しいまでも、私どもはその応酬に追われましたが、時ならぬ賑わいに陽子がびっくりするやうでした。

第三にまだ不明な点の多い忠敬関連の研究を深め、忠敬学をさらに究めて行くことにあると考えています。

この稿を発送する直前になつて思ひもかけない東日本大震災が発生いたしました。被災の方々には心からのお見舞いを申し上げます。

当分休館の由。元記念館館長、伊能権雄さんから、メインストリートの正文堂、小堀屋、福新呉服店、正上など旧家の全ての瓦が落下。旧宅の前を流れる小野川も一部で石垣が崩れ、液状化現象で川底が隆起するなどの惨状に息を呑みました。

東日本大震災で 旧宅も被災！



▲屋根瓦の大部分が落下した忠敬旧宅

液状化で河床が
上がった小野川

(写真提供：伊能権雄氏)

●西川 治さん（東大名誉教授）
「国宝指定記念、伊能研十五周年記念」大成功、おめでとうございます
昼、NHKのニュースで拝見しました。少々体調を気遣い、折角の催しに参加せず、生涯の悔み、となりました。関係資料、大切に保存、いつか他で御紹介できれば、と余命の長からんことを願っています。
ありがとうございました。

●金澤敏知さん（元国土地理院長）
「伊能忠敬先生関係の資料をお送り
くださいまして、有難うございました。
『確かに一步』興味深く拝聴しました。
（名簿参加）」

井上靖子さん(伊能家六代目長女)
●
一會費納入りし出席予定のところ、
気象状況が悪いので、高齢であり欠
席された。名簿上は出席扱い。
「春立ちましても、お寒い日々
が続きます。昨日は百二十人も
集まられ、御盛会だった由、雪
まじりの中、よく集まられ御同
慶に存じます。残念ながら八十
八の歳には一寸きつく、止めら
れてしまい、大変失礼致しまし
た。(以下裏面)何卒、悪しか
らず御容赦賜ります様御願い申
上げます。ニユースの画面で
拝見しました。何卒、今後くれ
ぐれも御自愛専一に願いあげま
す。御よろこびと御詫びまで。
(二月十三日付)



▲ 井上康子さんからの葉書

渡辺一郎様

井上靖子
かしこ

び宜しく申し上げるよう申しました。私の会費を先払いさしていいただいた。澤山の資料を本當にせめて申してました。あと存じました。あと十二分にお疲れ大切に有り申します。お過ごし下さいませ。
（略）

●柏木隆雄さん（税理士・作詞家）
「お便りと写真、ありがとうございました。催しも全国に配信され、盛会に終了しました」と、渡辺さんの多大な御尽力の賜ものと感服いたしました。演奏の

●
当主)神保誠さん（忠敬の父の実家）
「過日は大変お世話になりました。心より
に有難うございました。心より
御礼申し上げます。
お陰さまで、子孫達、一同に
会することが出来て、本当に記
念すべきことでした。
その翌日は知人から電話、ま
たお逢いしたときなど、時の人
になってしまい有名人でした。
これまた渡辺さん、先祖のお陰
と感謝しております。
コピーと写真をお送りくださ
り重ねがさねお礼申し上げま
す。
どうぞお元気で。」

よろしくお祈りいたします。ありかどございました。

A circular portrait of Dr. Chen Shih-ching, a woman with short brown hair and glasses, wearing a dark top.

▲飯塚薫子さん

〔元中学校理科教女〕

お二人も気持ち良くなつていた
だき、想い出にも残ることで
しよう。」

国宝指定祝賀 &
伊能研十五周年記念行事
出席者名簿 (順不同・敬称略)

宇井成一	香取市長
林幹雄	衆議院議員
岡本博	國土地理院長
吉兼秀典	國土地理院參事官
志賀直溫	東金市長 講演のみ出席
斎藤隆	横芝光町長
川島伸也	九十九里町長
鈴木全一	元佐原市長
伊藤和男	千葉県議会議員
谷田部勝男	香取市教育長
木村修	県立佐原高校長
青柳英男	県立小見川高校長
平山真佐雄	佐原高校同窓会長
高岡正剛	佐原商工会議所会頭
宇井正一	香取市議會議長
河野節子	香取市議會議員
坂本洋子	香取市議會議員
郡茂雄	香取市議會議員
小野勝正	香取市議會議員
木内志郎	香取市企画財政部長
柏木幹雄	佐原青年会議所副理事長
椿直吉	佐原青年会議所前理事長
荒井利尚	リブラン社主
菅井康太郎	日本土地家屋調査士会連合会長
大星正嗣	日本土地家屋調査士会連合会副会長
木谷道宣	日本ウォーキング協会副会長
堀野正勝	伊能研ウォーカー本部隊長
大内惣之丞	習志野市
佐野靖明	日本ウォーキング協会会長
伊形友男	東總歩こう会会长
宇井成一	香取市長
林幹雄	衆議院議員
岡本博	國土地理院長
吉兼秀典	國土地理院參事官
志賀直溫	東金市長 講演のみ出席
斎藤隆	横芝光町長
川島伸也	九十九里町長
鈴木全一	元佐原市長
伊藤和男	千葉県議会議員
谷田部勝男	香取市教育長
木村修	県立佐原高校長
青柳英男	県立小見川高校長
平山真佐雄	佐原高校同窓会長
高岡正剛	佐原商工会議所会頭
宇井正一	香取市議會議長
河野節子	香取市議會議員
坂本洋子	香取市議會議員
郡茂雄	香取市議會議員
小野勝正	香取市議會議員
木内志郎	香取市企画財政部長
柏木幹雄	佐原青年会議所副理事長
椿直吉	佐原青年会議所前理事長
荒井利尚	リブラン社主
菅井康太郎	日本土地家屋調査士会連合会長

伊能研フロア展関連来賓 一〇人

片山篤	鎌田光明	千葉県ウォーキング協会副会長	市川市
小林清一	千葉日報社事業局	千葉日報社事業局	千葉市
西川治	東大名誉教授(地理学)	多摩市	島崎恭一
安藤政璋	元船舶機関士	横浜市	川上清
矢能彰	職域訓練講師	さいたま市	坂本巍
竹村基	イノベディア同人	名張市	永野達代
馬場良平	佐賀銀行OB	武雄市	小池美幸
大沼晃	キヤリアアドバイザー	藤沢市	朝岡洋子
佐賀銀行OB	元NHK記者	福岡市	伊能四郎右衛門家
忠敬茶屋社長	(株)東京カートグラフィック会長	藤沢市	東久留米市
元NHK記者	主婦、油絵	福岡市	鎌倉市
忠敬茶屋社長	都立大学名誉教授	藤沢市	加古川市
伊能達雄	島根大学名誉教授	藤沢市	北区
高安克己	佐原出身	藤沢市	須賀川市
伊能達雄	元福岡県職員	藤沢市	綾部市
秋間實	学習院名誉教授	逗子市	坂本義親
河島悦子	早稲田大学准教授	松戸市	喜多昭一
齊藤仁	戸田建設OB	松戸市	伊藤浩史
浅井京子	横須賀文化財協会役員	逗子市	松宮輝明
白根貞夫	主婦、ウォーカー	藤沢市	平岡佳子
齊藤重則	横須賀文化財協会役員	藤沢市	藤岡健夫
岡部孝子	横須賀文化財協会役員	藤沢市	金窪敏知
河西浩	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚
河西美恵	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚
久保木恒雄	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚
中川幸子	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚
狼芳明	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚
清水靖夫	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚
石川清一	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚
河崎倫代	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚
山浦佐智代	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚
吉田正人	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚
筑波大学准教授	横須賀文化財協会役員	藤沢市	伊能家縁戚

伊能三三代	管理介護士	札幌市
科学史学会関東支部長	元高校教諭	府中市
元高校教諭	科学史学会関東支部長	嬉野市
主婦	元高校教諭	千葉市
朝岡洋子	常陽銀OB	水戸市
伊能四郎右衛門家	三菱電機OB	藤沢市
東京電力OB	三菱電機OB	藤沢市
元NTT役員	常陽銀OB	杉並区
島崎恭一	東久留米市	香取市
川上清	鎌倉市	嬉野市
坂本巍	加古川市	札幌市
永野達代	北区	府中市
小池美幸	須賀川市	嬉野市
朝岡洋子	綾部市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀OB	香取市
朝岡洋子	東久留米市	嬉野市
伊能三三代	伊能四郎右衛門家	千葉市
科学史学会関東支部長	常陽銀OB	水戸市
元高校教諭	三菱電機OB	藤沢市
主婦	常陽銀	

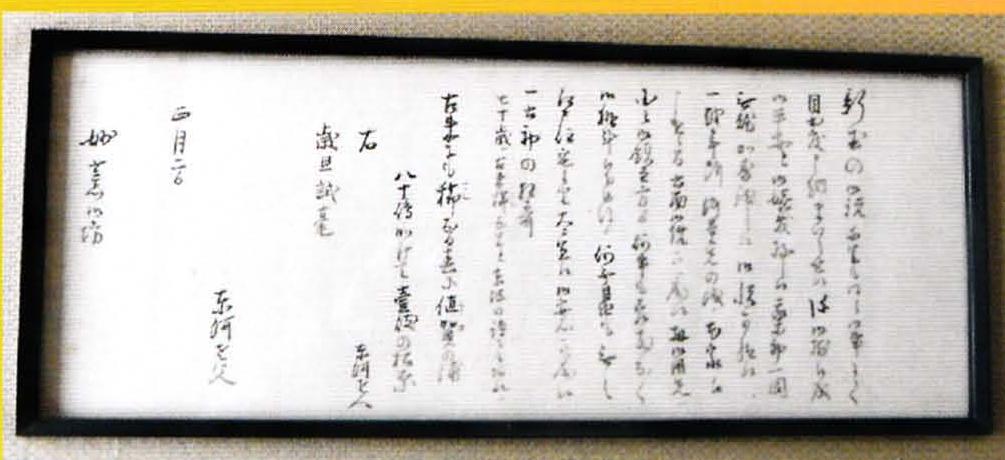
ほっと・にゅーす



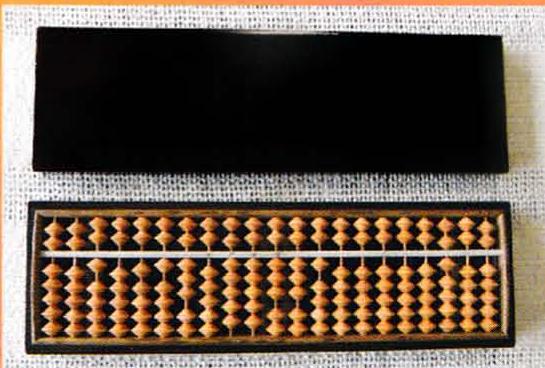
潮来の藤岡家に伝えられた、忠敬の遺品が香取市に寄付されることになりました。これらは、会員藤岡健夫さんの祖母が、伊能家から嫁に来る時に貰ってきたものだそうです。

- ①忠敬の算盤
- ②江川太郎左衛門英毅（英龍の父）からの書状
- ③長女妙薰への年賀状
- ④稻取付近の下図

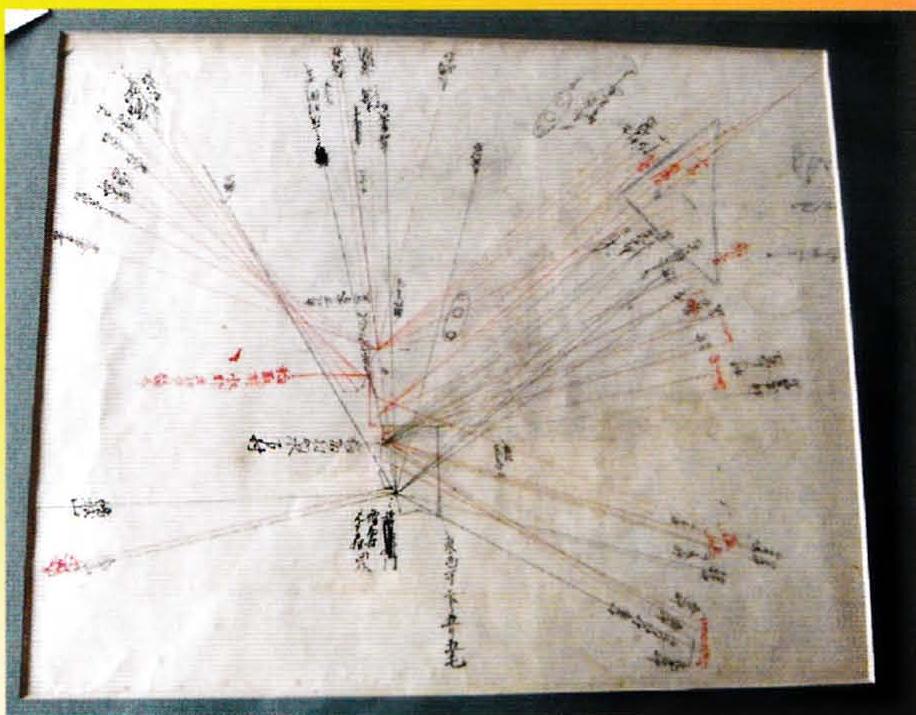
（写真撮影・渡辺一郎）



③長女妙薰への年賀状



①忠敬の算盤



④稻取付近の下図



②江川太郎左衛門英毅（英龍の父）からの書状

あとがき

昨年暮れから、色々準備を進めてまいりました「伊能忠敬関係資料国宝指定記念・伊能忠敬研究会十五周年」記念行事が終わりました。このイベントの会計は関係者の方々の御努力で若干の黒字となりましたので、報告いたします。

当初、会費だけでは赤字を想定していましたが、予想外のいい結果でした。その理由は、

- ①二六名もの多数の名簿参加をいたしましたこと
- ②盛会で多人数の御参加をいたしましたこと
- ③飲み物を別会計とするなど、開花亭としつかり交渉したこと

④高宮グループでCD制作費、レジュメ・参加者名簿の印刷費を持つていただき、当主の高宮啓明さんから五万円の御寄付をいたしましたこと

- ⑤伊能敏雄市議（理事）の大変な御尽力をいたしましたこと
- ⑥柏木隆雄さんに、歌手・伴奏者費用を形ばかりにしていただきましたこと
- ⑦宮内さんに名札印刷を引き受けていたしましたこと

など関係者の皆様に多大なお世話になつた結果です。厚く御礼申し上げます。特に佐原支部の香取支部長ほかの皆さんと、高宮グループには大変な御協力をいただき、ありがと

うございました。

当初から考えておりました記念誌ですが、黒字分を財源として、懸案の会誌のカラー化実験を兼ねて発行することとしました。さいわい会員の島根大学名誉教授の高安さんが、編集主任を引き受けいただき、このような立派な記念誌が出来上りました。

高安先生、ありがとうございました。それから、本誌に対する皆さんのご感想をいただきたいと思います。

六四頁立ての従来の会報も頁数を減らして、このよう形で発行してはどうかと思います。PSDによる完全原稿を作り、オンライン発注するこにより、予算的には従来の枠の範囲内でおさまる見込みです。

作り方は高安先生が指導してくださいるそうですので、編集委員を引き受けていただける方は手を挙げてほしいと思います。

出稿者へのお願いとしては、編集委員に負担をかけないため、依頼原稿以外は、必ず完成原稿を電子データとして入稿してほしいと思います。それから、写真は鮮明なこと、写真を多く入れてカラーで見せる原稿が良いでしょう。また、頁数を減らしますので、編集方針に従つて原稿は取捨することになるでしょう。

（渡辺一郎 記）

